

わたしとわたし、ぼくとぼく

作 関根信一

【登場人物】

佐々木健人	30歳 保育士
佐々木健人	10歳 小学5年生
菊池美都里	健人のクラスメート
少女	謎の少女
佐々木由美子	健人の母親
松田梨絵	健人のクラスメート
和泉綾香	健人のクラスメート
土屋香奈	健人のクラスメート
園長先生	健人が勤める保育園の園長先生
近藤美紀子	健人の同僚の保育士
菊池和香子	美都里の母親
新幹線の車掌	東北新幹線の車掌
新幹線の乗客	鉄道オタク
おばあちゃん	健人の母方の祖母
ドラッグクイーン	札幌のパレードで出会う豪華な女装
パレードのスタッフ	札幌のパレードの実行委員長
保護者1	娘を保育園に通わせている父親
保護者2	娘を保育園に通わせている母親
保護者3	息子を保育園に通わせている母親

【時間】

2017年の今と、20年前の1997年

【舞台】

具体的な装置は特にない。いくつかの椅子が舞台上に置かれている。

*

*

*

*

*

2017年。

健人の部屋。

夜遅い時間。

一人いる健人。

スマホを見ているが、あまり熱心なようすではない。

しばらくしてスマホを放り投げて横になる。

ドアの向こうから母親の由美子の声。

由美子

健人、起きてる？

健人

なに、母さん。

由美子が入って来る。

由美子

晩ご飯、どうする？

健人

知らない。

由美子

少しは外に出たら。

健人

出てるよ。

由美子

コンビニでしょ。ねえ、タロウの散歩行ってくれない。

健人

行かない。

由美子

いいじゃない、運動よ。

健人

行かない。

由美子

園長先生から電話あったよ。いつ頃復帰できそうかって。

健人

……

由美子

あんたに電話しても出ないからって。電話出なさいよ。子どもたちも待って

るって。どうする？

健人

わからないって言つといて。

由美子

自分で言いなさいよ。子どもじゃないんだから。

健人

わかった。

由美子

じゃあね。

由美子出て行くが、ふと健人に目を止める。

由美子

あんた、老けたねえ。

健人

……！

由美子

すっかりおじさんになってるよ。知ってる？

健人

知ってるから、ほつといてよ！

由美子

……おやすみ。

健人、立ち上がり、鏡を見る。そこにいるのはたしかにおじさんだ。

健人

おじさんか……

健人、独り言のようにつぶやき、ため息をつく。

健人

おじさんで悪いか？！

どこからか声がする。

声

悪くないよ。

健人

は？

声

でも、やっぱり、お兄さんの方がいい？

健人

え？

声

男の人は、お兄さん、おじさん、おじいさん。女の人は、お姉さん、おばさん、おばあさん。みんな受け入れていくんだよ。

健人

わかってるって。あ、そうか。独り言。そうだよ。しゃべってるのは鏡の中のぼくだ。受け入れてるよ。ぼくはおじさんだ。

声

ほんとに？

健人

ほんというところ微妙。だって、体操のお兄さんとは言うけど、体操のおじさんとは言わないじゃない。でも、間違いなく、その階段のぼっちゃったわけだし。

声

のぼっちゃったんだ？

健人

うん、しっかりね。

健人、ため息をつく。

声

悩みがあるなら聞くとよ。

健人

いいよ、って。そうだよ。しゃべった方が楽になるかも。

声

そうそう。

このあたりで、声の主が現れる。小柄な少女。健人は気にしない。

健人

この間の保護者会。

少女

この間？

健人

先月。

少女

ひどいこと言われたんだ？

健人

まあね。ていうか、聞いてくれるかな

少女

うん。

保育園の保護者会。

園長、保育士の近藤美紀子、保護者1、2、3が登場する。

健人もそこに加わる。

少女は少し離れて見ている。

園長先生

今日はお忙しい中お集まりいただき、ありがとうございます。それでは、今日はこのへんで。何かありましたら、連絡帳でお知らせいただくか、私たちに直接ご相談ください。

健人と近藤、立ち上がり、頭を下げる。

保護者達も立ち上がるが……

保護者1

あの、いいですか。

園長先生

あ、どうぞ。

健人と近藤、着席する。

保護者1

妻とも話したんですが、うちの娘のおむつを男の先生に替えてほしくないんです。

間

保護者1

ネットで話題になりましたよね。だからってわけじゃないんですけど。

保護者2

実は、私も同じことお話しようかと思っていて。

園長先生

ご存じのとおり、保育士の数が少なくて、そうできたらと思うのですが、なかなかむずかしい時もあるんです。

近藤 交替でやっているんですが、手が放せないときがあつて。

保護者 1 それはわかりますが、できるだけということ。

近藤 はあ。

健人 あのと、まなちゃんのおむつ。お父さんが替えたりされますか？

保護者 1 ええ、やりますよ。家事も子育ても夫婦で分担していますから。

健人 あのと、ぼくも父親のような気持ちでいるんです。

保護者 1 父親って……、結婚されてないですね。

健人 ええ、まあ、そうですね。

保護者 1 結婚して、子どもを持ったら、私の気持ちもわかっていただけたと思うのですが。

近藤 あのと、私もしてません。

保護者 2 そうということじゃないんですよ。ねえ？

保護者 1 ええ。

保護者 3 気持ちはわかりますけど、そこまで気にしなくても。

保護者 2 お宅は男の子だから。でも、ねえ。

保護者 1 園長先生、よろしくお願いします。

園長先生 お気持ちはうかがいましたので、善処したいと思います。ですが、佐々木先生はきちんとした保育士さんです。そのところはくれぐれも誤解されませんように。

保護者 1 もちろんですよ。

保護者 2 ごめんなさい。私、そろそろ……

保護者 1 私も。

園長先生 それでは、今日はこれで。どうもありがとうございました。

保育士と健人、頭を下げる。

健人、保護者 1 に声をかけようとするが、保護者 1、無視して出て行った。

保護者 2 も。

保護者 3 (健人に) 気にしないでいいと思いますよ、私は。

健人 ありがとうございます。

保護者 3、出て行く。

園長先生 やっぱり来たか……。

近藤 園の方からひと言伝えておいた方がよかったかもしれないですね。

園長先生 でも、ほんとにそういう人いるなんて。初めてだよね？

近藤 ええ、私は聞いたことありません。

園長先生 時代が変わったってことなのかな。

近藤 前向きに善処するということ。

園長先生 そんな政治家の答弁みたいなことでもいいんだ？

近藤 だって、やましいことなんてないわけですから。

園長先生 そうだよ。

近藤 はい。

園長先生 佐々木先生、私は信じてますから。

健人 はい。ありがとうございます。

園長、出て行く。

近藤 だいじょうぶ？

健人 平気、平気。

近藤 失礼しちゃうよね。そんなつもりで子どもたち見てるわけないのに。

健人 うん。

近藤 佐々木先生の言ったとおりだと思うよ。親のような気持ちで見てる。私もそうだから。

健人 ありがとうございます。

園長先生の声 近藤先生！

近藤 はい。

近藤、出て行く。

健人、その場に座り込んでしまう。

少女 平気なんじゃなかったの？

健人 わかってる。わかってるんだけど、言い返せなかった。

少女 言い返してたよ。

健人 そうじゃなくて。ぼくはまなちゃんをそんなふうないやらしい目で見たことはないって。だって、ぼくは……

少女 保育士だから。

健人 そうじゃなくて、ぼくは……

少女 女の人に興味ないから。ゲイだから。

健人

そうだよ。でもさ、それを言ったら、じゃあ、男の子のこといやらしい目で見てるのかって話になるかもしれない。それに、そんなこと言ったら、そんな人間に子どもを任せられないって話になるかもしれない。

少女

そんなのおかしい。

健人

でも、ああいうお父さんいるわけだし。だから誰にも言っていない。ずっと関係ないと思ってた。ずっと、それで仕事してきた。子どもは好きだ。それなのに……

少女

こんなふうに住んでたら、自分が悪いって認めたことになるんじゃない。

健人

しょうがないんだ。朝起きられなくなった。それから眠れなくなった。

少女

元気出しなよ。

健人

元気じゃない人に元気出しながら言うのよくないんだよ。

少女

がんばれ！

健人

がんばれって言うのも。（少女の存在に気づいて）って、さっきから何なのこれ？ お前、誰なんだ？

少女

お願いがあるの！

健人

お願い？

少女

世界を救ってほしい！

健人

は？

少女

世界を救ってほしい！

健人

何、何、何？

少女

聞こえなかった？（はっきりと）世界を、救って、ほしい！

健人

聞こえてるから。え、何、突然。何でぼく？

少女

あなたにしかできないの！

健人

救ってほしいのはぼくの方なんだけど。何なの、これ。全然わからない。

少女

じゃあ、説明するから、行こう！

健人

行こうってどこに。

少女

鏡の向こうに！

健人

は？ 鏡って、これ？

健人、鏡を指す。

少女

そう。

健人

落ち着け、おれ。どうかしてる。

少女

どうもしてない。このままじゃ世界が終わってしまうんだって。

健人

だから、なんでぼく？ お前、いったい誰なんだ？

少女

行くよ！

健人

あ！

少女、健人の手を引いて鏡の中に入っていく。

健人

どこに行くの？

少女

20年前。

健人

タイムリープ？

少女

そういうこと。

健人

世界を救うんじゃないの？

少女

過去にさかのぼらないとだめなんだよ。

健人

意味がわからない。

少女

20年前の自分に会って。

健人

それってだめなんじゃないの？

少女

なんで？

健人

だって、SF小説に書いてあったよ。会った瞬間、二人とも消えるって。

少女

SFでしょ。小説でしょ。これは現実だから大丈夫。

健人

何それ？

少女

よし。着いた。じゃあね。

健人

行っちゃうのかよ？ 世界を救うってどうすればいいんだよ？

少女

20年前の自分をたすけてあげてほしい。

健人

たすけるってどうやって？ そんなに困ってたかな？

少女

自分の20年前でしょ。

健人

覚えてないし。

少女

全然？

健人

全然。覚えてないよ、そんな昔のこと。それにどうやって帰ればいいんだよ。

少女

思い出せばいい。

健人

へ？

少女

ずっと忘れてたこと、忘れようとしたことを思い出せば戻れるから。

健人

そんな……

少女

じゃあね！

健人

ちよつと待って！

少女（客席に向かつて） 1997年、今から20年前。

健人

誰にしゃべってんの？

少女、一礼すると、いなくなってしまう。

健人

何だよ、もう。

小学校のチャイムが聞こえてくる。

そこは今から20年前。1997年。健人が通っていた小学校の教室。
クラスメイトの女子、梨絵、香奈。美都里と十歳の健人がいる。

帰りの会が終わって、先生が出て行ったところ。これから掃除の時間だ。

梨絵

ああ、帰ろう帰ろう。

香奈

掃除だるいなあ。

梨絵

帰っちゃう？

香奈

ええ、どうしようかな？

梨絵

いいじゃん、いいじゃん。

香奈

ええ……

梨絵

気にすることないって。

綾香がやってくる。

綾香

ねえ、梨絵ちゃん、私の家でポケモンしない？

梨絵

いいねえ。香奈はどうする？

香奈

するする！ 行こう、綾香ちゃんち。

三人、出て行こうとする。

美都里

ちよつと待ちなよ。掃除当番でしょ。

梨絵

てきとうにやっというて。

美都里

ええ？

綾香

いいじゃん、今度替わるから。

美都里

そうやって、いっつもさぼるじゃない。

香奈

そんなことないよ。

梨絵

男子だってみんな帰ってるじゃん。

美都里

だからって……

綾香

健人と一緒にやってりやいいじゃん。ねえ、健人。

健人

……掃除さぼるのはよくないよ。

香奈

さぼるんじゃないくて、替わってって言うてんの。

梨絵

健人、男らしく髪切れよな。もう夏なんだから。

綾香

暑苦しいんだよ。

香奈

ていうか気持ち悪くない？

健人

……。

梨絵

なんだか元氣ないねえ。どうしたの？

綾香

翔太くんが転校しちゃってからずっとだよ。

梨絵

でも一ヶ月も経つにおかしくない？

綾香、梨絵に耳打ちする。

梨絵

ええ！ そうなの？

健人

いいだろ、友だちなんだから。

綾香

それだけ？

香奈

それだけ？

美都里

やめろよ。

梨絵

また出た。

美都里

いいよ、二人でやろう。

梨絵

美都里はいつも健人をかばうのな。

綾香

好きなんじゃん。

香奈

でも、無理だよ、健人は翔太くんのが好きなんだから。（わざと）あ、

梨絵・綾香

言っちゃった！

健人

……。

美都里

やめろよ！

梨絵

おこった！

綾香・香奈

おこった！

梨絵

（ぼんやり外を見ている健人に気付き）健人、何見てんの？

健人 おじさんがいる。

梨絵 おじさん。

美都里 ほんとだ。

大人の健人、まわりを見回す。

大人の健人 ぼく？

健人・美都里 うん。

綾香 誰もいないよ。

香奈 おかしいんじゃない。

美都里 いるよ、おじさんがいる。そこに。

美都里、大人の健人を指す。

少女たちには見えないらしい。

綾香 二人とも変なの。

香奈 気持ち悪い。

梨絵 行こうぜ。

綾香、香奈 帰ろう、帰ろう！

梨絵、綾香、香奈出て行く。

残ったのは、健人と美都里と健人。

わかりにくいので、以下、大人の健人は、おじさん健人と呼ぶ。

おじさん健人 どうも。

健人 どうも。誰ですか？

美都里 やめなよ。知らない大人と話しちゃいけないって。

おじさん健人 知らないってわけでもないんだけど。

美都里（健人に） 知り合い？

健人 ううん。

美都里 先生呼んでくる。

美都里、出て行こうとする。

おじさん健人 ちょっと、待って。えーと、あやしい者ではありません。

美都里 じゃあ、誰なんだよ。

おじさん健人 えーと……

健人 なんで靴履いてないんですか？

言われてみれば、おじさん健人は裸足だ。

おじさん健人 いろいろ事情があつて。

美都里 事情？

おじさん健人 ぼくは未来から来ました。

健人、美都里 未来？

美都里 何のために？

おじさん健人 えーと、君を助けるために。

健人 ぼくを？

美都里 あやしすぎる。先生！ 先生！

美都里、出て行こうとする。

おじさん健人 ちよつと待つて。（健人に）何か困つてることない？

健人 困つてること？

美都里 ほんとに助けてくれるの？

おじさん健人 もちろん！

美都里 じゃあ、掃除さぼつて帰ったやつら連れてきて掃除させてよ。あいつら、いっ

つもさぼつてばかりで。

おじさん健人 OK、まかせて！

ダッシュで出て行くが、すぐ戻つて来る。

おじさん健人 でも、ぼくの姿見えてないみたいだし。

美都里 役に立たないなあ。

おじさん健人 他にない？

美都里 じゃあ、あいつらが健人のこといじめるのやめさせてよ。

おじさん健人 ……。

美都里 健人のこと、男らしくないって言っていじめるんだ。たすけてくれるって言っ
たよね。じゃあ、たすけてよ。

健人　　お願いします。

おじさん健人　　うーん、男らしくないって言われるなら、男らしくなればいいんじゃないかな？

美都里　　は？

健人　　あの、男らしいって何ですか？

おじさん健人　　えーと、何だろう？

健人　　ぼく、今までと何も変わってないつもりなのに、みんなから仲間はずれにされて。男子から女子からも。男は男同士、女は女同士遊ぶんだって。みんな仲良くって言われてたし、みんな一緒に遊んでたのに。そんなのおかしいんだって。よくわからないんです。

おじさん健人　　それがだんだん大人になっていくってことなんじゃないかな？

美都里　　そんなのずっと先なんですけど。

おじさん健人　　じゃあ、そうだ。強くなるっていうのはどうかな？

美都里　　喧嘩に勝てるように？

健人　　喧嘩はだめだよ。

おじさん健人　　そうなんだけど、体だけじゃなくて、心も強くなるんだよ。

健人　　どうすればいいんですか？

おじさん健人　　え？

健人　　どうしたら強くなれるんですか？

おじさん健人　　……がんばる。

健人、美都里　　……。

おじさん健人　　がんばれ！　応援するから！

美都里　　全然だめだ。

健人　　うん。

おじさん健人　　他に何かない？　もっと他のこと！

健人　　じゃあ、翔太くんに会わせてほしい。

おじさん健人　　翔太くん？

美都里　　健人の親友。先月転校してった。

健人　　会いに行きたいんだ。でも、お母さんが遠いからだめだって。一緒に行ってく

れないかな？　お願いします！

美都里　　それくらいできるよな。大人なんだから。

間

おじさん健人 止めた方がいいんじゃないかな？

健人 なんですか？

おじさん健人 いや、翔太くん、もう新しい友だちができてるかもしれないし。

健人 また会おうって約束したんだよ。

おじさん健人 そうかもしれないけど……

健人（美都里に） いいよ、行こう。

美都里 え？

健人 行こう、二人で！

美都里 今から？

健人 行こう、一緒に。

美都里 うん。

二人、歩き出す。

おじさん健人 待って！ 行っちゃだめだ！

少女がやってくる。

少女 どうしたの？

おじさん健人 思い出したんだ。翔太くんに会いに行ったこと。電車に乗って、翔太くんに会いに行った。住所のメモを頼りにしてね。

別の空間に健人と美都里が現れる。メモを手にして翔太の家を探して歩いている。

おじさん健人 やっと見つけた翔太くんの家、いつも遊んでたときみたいに呼んでみた。

翔太の家の前。

健人（大きな声で） 翔太くん！！

健人と美都里、ストップモーション。
間

おじさん健人、健人のとなりに立つ。

おじさん 健人 玄関から顔を出した翔太くんはびっくりしてた。「健人、どうしたの？」

健人 会いに来た。元気？

おじさん 健人 翔太くんは困った顔してた。そして、言った。「ごめん、今、友だちが来てるんだ。」

健人 ……

おじさん 健人 「もう来ないでくれるかな。じゃあね。」そう言って、玄関のドアを閉めた。

ドアの閉まる音。

美都里 帰ろう。

健人 ……

二人、歩いて行った。

おじさん 健人の部屋。

おじさん 健人 世界の終わりか……

少女 え？

おじさん 健人 思い出したよ。世界が終わったみたいだったんだ。

少女 まだ終わったわけじゃないよ。終わったみたいってだけで。

おじさん 健人 翔太くんのところに行っちゃいけなかったんだよな。あの時、会いに行かなかったら、いろいろなことが変わってたのかもしれない。

少女 そうなの？

おじさん 健人 うん。初めて誰かのことが好きになったんだ。初恋ってやつ。初めはおかしいと思わなかった、でも、だんだんおかしいんだって気がついて、でも、どうしようもなくて。

少女 翔太くんに会えなくなつて、今度は女の子のことが好きになった？

おじさん 健人 ううん、全然。今でもずっと好きなんだと思うよ。おかしいよね。

少女 今の翔太くんに会いに行く？

おじさん 健人 いいよ、どうしてるか知らないし。あの後、また遠くに引っ越したんだ。それに、もう会いたくないって言われたんだから、二十年も前に。

少女 会いに行く前に戻って、もう一度、やり直してみたら？ 会わなかったことにする。

おじさん 健人 だめだよ。だって、あんなに会いたかったんだから。

健人、またごろりと横になる。
少女、健人を見ているがやがて去る。
暗転。

学校のチャイムの音。
数日後の小学校の教室。
帰りの会。

綾香　ねえ、映画見た？「もののけ姫」？

梨絵、香奈　見た見た。

香奈　かっこいいよね、アシタカ！

梨絵　おもしろかった。

綾香　気持ち悪くない？

香奈　何が？

綾香　なんか虫みたいのがうじゃうじゃして。

香奈　鹿がかわいかったね。

綾香　ヤックル。かわいい。

香奈　狼が迫力だった。

綾香　モロの君？

香奈　そうそう。「生きろ！」って。

梨絵　あの声、美輪明宏がやってるんでしょ？

香奈　誰？

綾香　男だか女だかわからない人。

香奈　どっちなんだろう？

梨絵　主題歌歌ってる人もそういう人っぽくない？

香奈　そういうって？

梨絵　男か女かわからない。

綾香　あれは男の人だよ。

梨絵　だって、すごい高い声だよ。

香奈　女の人だと思ってた。

梨絵　うちのクラスにも男か女かわからないのがいるけどな。

綾香　ええ、誰？

梨絵、綾香に耳打ち。香奈もまざる。

綾香

ええ？

梨絵

あと……

梨絵、綾香に耳打ち。香奈もまざる。

綾香

たしかに。

美都里

うるさいな

梨絵

何も言っていないけど。

綾香

二人で見に行けばいいんじゃない、もののけ姫。

梨絵、綾香、

香奈（はやしたてる）もののけ！　もののけ！　もののけ！

香奈

先生だ。

担任教師が入って来る。
みんな席につく。

先生

はい、今日は、みんなの心と体についての学習をしましたね。みんなはこれから、体がだんだん変わっていくきます。男子は男らしく、女子は女らしくなっていくきます。男子は女子のことが、女子は男子のことが好きになっていきます。それが大人になるための変化です。

梨絵

先生、質問なんですけど。

先生

何ですか？

梨絵

美都里みたいな子も女らしくなるんですか？

先生

え？

健人みたいな子も女子のことが好きになるんですか？

綾香

間

先生

それは、一人一人違うから。なんて言ったらいいか……

梨絵

先生、しっかりしてください。

先生

成長の度合いは人によって違うから。今は、まだ変わらなくても、みんなより遅れて変わる人もいます。

美都里

変わらなくちゃいけないんですか？

先生

いけないってことはないけど、いつまでも子どものままではいけないよね？

美都里 大人になんかなりたくないです。

梨絵 そんなの無理じゃん。

綾香 何言ってるの？

美都里 どうしたらいいですか？

先生 あとで先生と話そう。それでは、プリントを配ります。

プリントを配る。

先生 みんなに、大人になった自分への手紙を書いてもらいたいと思います。

梨絵、綾香、香奈 大人になった自分？

先生 今の自分から大人になった自分に、手紙を書いてください。今の自分はこんな気持ちだよ、どんな大人になっていますか？って。

梨絵 それどうするんですか？

先生 みんなが大人になるまで、先生が預かっていようと思います。でも、ちょっとむずかしいので、みんなが大事に持って、大人になってから読んでみてください。でも、今日は提出して帰ってくださいね。

綾香 何それ？

香奈 手抜きじゃないですか？

先生 じゃあ、始め！

子どもたち、しゅしゅ手紙を書き始める。

美都里と健人、なかなか書き出せないでいるが、なんとか書き始める。

梨絵、綾香、香奈、それぞれ書き終えて、先生に提出して去る。

美都里と健人、悩んでいる。

おじさん健人、近くにやってきて、のぞきこむ。

健人 やめてよ。

おじさん健人 いいじゃん。

健人 未来ってどんなですか？

おじさん健人 未来？

先生 さあ、どんな未来だろうね。佐々木くんはどんな未来がいい？

健人 ……いえ、なんでもありません。

おじさん健人、健人からはなれて美都里をのぞく。

美都里　やめろよ。

おじさん健人　「ちょっと」見せてよ。

美都里　先生、なんかうるさいんですけど、このへん。

おじさん健人　なんだよ！

先生　このへんって虫か何か？

美都里　そんなもんです。

先生　よし、キンチョール！

おじさん健人　わかったよ、見ないよ。

美都里　いなくなりました。

先生　なんだそうか。

健人、先生に提出、続いて美都里も。

おじさん健人、結局、見る事が出来ない。

先生　二人とも、何か困ったことがあったら、相談して。

健人　はい。

美都里　……。

先生　じゃあ。

先生、退場。

美都里　何書いた？

健人　教えない。そっちは？

美都里　教えない。じゃあね。

二人、別れて、退場。

健人についていこうとするおじさん健人。

健人　ついてこないでください。

おじさん健人　力になりたいんだ。

健人　気持ちだけ受け取っておきます。

おじさん健人　そんな……

健人　失礼します。

健人、行ってしまう。

おじさん健人　なんだよ。もう……

おじさん健人、しばらく考えていたが、美都里についていく。

美都里の家。

美都里の母、和香子がいる。

美都里　ただいま。

和香子　おかえりなさい。遅かったね。

美都里　うん、寄り道してた。

和香子　だめでしょ、まっすぐ帰ってこなきゃ。今日、性教育の授業あったんだって？

美都里　……

和香子　先生から電話あった。あんた大丈夫？

美都里　何？

和香子　これ。

和香子、華やかな色の女の子の服を取り出す。

和香子　あんたの部屋のゴミ箱に入ってた。

美都里　着ないもん。

和香子　だからって捨てることないでしょ。

美都里　捨てたんじゃないよ、机の上から落ちたんだよ。

和香子　言い訳しないの。せっかくお父さんが買って来てくれたのに。なんでそういうことするの。

美都里　そういうの好きじゃないって言ってるじゃない。

和香子　女の子でしょ。もっと女の子らしい服着たらどうなの？

美都里　着たくないって言ってるじゃない。塾の支度する。

美都里、出て行こうとする。

和香子　待ちなさい。ちゃんと話そう。

美都里　もう……

和香子　あんた大人になりたくないって言ったんだって？

美都里

……

和香子

しかたないのよ。もうじき中学生なんだから。男の子は男らしく、女の子は女らしくなっていくの。中学生になったら、制服着なくちゃいけないんだから。

美都里

わかってる。だから、いいじゃない。ほつといてよ。

和香子

ほつとけるわけじゃないでしょ。いい、いやだからってそんな男の子みたいな格好ばかりしていると、気持ちだって、どんどん男の子みたいになってくのよ。試しにこういう服着てみたら、それに合わせて、気持ちだって変わっていく。そういうものじゃないの？

美都里

変わらないって、言ってるじゃない。

和香子

わからないでしょ。いいから、着てみなさい。

美都里

いやだ。

和香子

美都里ちゃん！

美都里

いやだ。

和香子

美都里！

美都里

いやだ。

和香子

美都里！

和香子は服を美都里に押し付け、美都里は受け取らない。押し問答。

美都里（服を床に投げて）もうやだ！

和香子

……。

和香子、服を拾い上げて部屋を出て行く。

おじさん健人、美都里のそばに。

美都里

未来から来たんでしょ？ 未来の私はどんなだった？ 普通の女の人になって

た？ ねえ、教えてよ。

おじさん健人

……ごめん。未来のことは教えちゃいけないことになってるんだ。そういう決まりで。

美都里

決まり？

おじさん健人

そうそう。

美都里

どうして？

おじさん健人

とにかく、そういうことになってるんだよ。

美都里

……。

美都里、出て行く。
少女がやってくる。

少女 教えてあげたらいいんじゃないの？

おじさん健人 教えてあげたいんだけど、どうしてるか知らないんだ。小学校卒業してから、
会わなくなつて。すっかり忘れてたくらいなんだから。

少女 でも、思い出した。忘れようとしてたけど。

おじさん健人 ねえ、大人のぼくは、子どものぼくにどうしてやればいいのかな？ どうした
ら、助けてやれるんだろう。

少女 自分のことでしょ。自分で考えなよ。

少女、退場。

おじさん健人 そんな……

*

*

*

*

チャイムが鳴る。
数日後の学校。

朝。梨絵、綾香、香奈がいる。

香奈 健人、翔太くんに会いに行つたんだって。

梨絵 ええ、まじ？

綾香 なんで知つてんの？

香奈 うちのお母さん、翔太くんのお母さんと仲いいから。

綾香 すごいね。

梨絵 でも、きもくない？

香奈 ていうか、迷惑だよな。

綾香 たしかに。

香奈 翔太くんも、もう来ないでほしって言ったんだって。

綾香 それもひどくない？

梨絵 でも、そういうもんだよ。新しい友達つくらなきゃってがんばってるのに。
香奈 そうだよ。

綾香　　また行ったりするのかな？

梨絵　　かもね。

香奈　　しつこい。

綾香　　ていうかきもい。

健人が入ってくる。

梨絵、綾香、香奈（はやし立てる）もののけ！　もののけ！　もののけ！　もののけ！

健人　　……

美都里、入って来る。

美都里（強く）やめろよ！！

梨絵、綾香、香奈　怒った！

香奈　　先生だ。

先生がやってくる。

一同席につく。

先生　　日直さん。

美都里　起立、礼。

一同、礼。

美都里　着席。

一同、着席。

先生　　この間、書いてもらった大人になった自分への手紙を返すので取りに来てください。

子どもたち、先生のところへ手紙を取りに行く。

先生　　大人になるまで大事に持っていてくださいね。

梨絵　　みんながどんな手紙を書いたか知りたいです。

綾香

一人ずつ読んでみたらいいと思います。

先生

発表はしなくていいです。これは自分のための手紙なので、心の中に大事にしまつて……

梨絵

でも、もう書きちゃったし。

香奈

じゃあ、私が読みます！

香奈、立ち上がって読み始める。

香奈

大人の私へ。私は英語の勉強をがんばって、通訳の仕事をしたと思っていました。やれていますか？ もしできていなかったら、なぜできていないのかを反省して、がんばってほしいです。期待を裏切らないでください。結婚とかはまだしなくてもいいので、まずは仕事をがんばってください。よろしく願います。

梨絵

梨絵が立ち上がって読む。

私から私へ。今、何してますか？ 結婚はしていますか。子どもはいますか？ 旦那さんはどんな人ですか？ 家族そろってみんなで旅行に行ったりしたいです。子どもは女の子と男の子が一人ずつ。ペットは家のラムくんとおなじトイプードルを飼っていてほしいです。

綾香

綾香が立ち上がって読む。

大人になった私へ。私には今たくさん友達があります。大人の私はどうですか？ 今の私は、プリクラを撮るのが大好きです。この手紙にプリクラを貼っておきますね。一緒に写ってるのは親友の梨絵ちゃんと香奈ちゃんです。身長は伸びましたか？ お父さんもお母さんも小柄なので、お母さんより大きくなれたらいいと思います。

綾香、着席する。

先生

ありがとう。みんな、すてきな手紙ですね。

梨絵

健人は？ どんなの書いたの？

香奈

聞きたいな。

先生

授業を始めます。

梨絵

佐々木くんがどんな手紙を書いたか知りたいです。

香奈

みんながどんなことを考えているのか知りたいです。

綾香

おもしろいじゃないですか。

先生

これは自分から自分への手紙です。おもしろがるためのものではありません。
授業を始めます。

梨絵、綾香、
香奈 ええ？！

美都里、立ち上がって、読み始める。

美都里

大人の私へ。大人の私は何をしているんだろう？ 今の私にはよくわかりません。どんな大人になっているのかも。私は大人になりたくないです。今のままでずっとみたいです。それでも、大人になった私がこの手紙を読んでくれるとうれしいです。それは、大人の私がちゃんといるということだから。私は今の私のまま大人の私になって、この手紙をちゃんと読めたらいいと思います。

健人、立ち上がって、読み始める。

健人

大人のぼくへ。元気ですか？ ぼくは元気です。ちょっとうそです。翔太くんが転校してしまって、とてもさびしいです。大人のぼくもさびしいままですか？ 今のぼくは男の子のことが好きになるみたいです。大人になってもそれは変わってませんか？ もう治って好きな女の子ができたりしていますか。ぼくは大人になったらやりたいことがいっぱいあります。夢はかなっていますか？ 教えてほしいです。

健人、着席する。

綾香

やっぱりそうなんだ。

香奈

そういうのって治るの？

梨絵

ええ？（と耳打ち）

梨絵たち、また内緒話を始める。

梨絵

やだ！！

健人

……

笑い合いふざけている。騒がしい。

先生

静かにして！ それでは授業を始めます。

授業が始まる。

健人は立ち上がって教室を出て行く。

先生と他の子どもたちは気が付かない。

美都里だけが気付いて、立ち上がり、後を追っていく。

おじさん健人、二人を追っていく。

教室の先生と梨絵、綾香、香奈、退場する。

学校の近くの土手。夕方。

健人と美都里、土手に腰を下ろす。

おじさん健人、少し離れて見ている。

間

健人

いいの、塾？ まだ間に合うんじゃない？

美都里

いいよ、行かない。受験とかしたくないし。

健人

制服のない中学、行くんじゃないの？

美都里

無理だよ、私、バカだもん。

健人

そんなことない。がんばろうよ。

美都里

健人はどうすんの？

健人

受験？ しない。お金かかるから。

美都里

そうか。

間

健人

さっきはごめんね。ぼくが早く手紙読めばよかったのに。

美都里

いいよ、読んだら、ちよつとすっきりするかと思って読んでみただけだから。

健人

すっきりした？

美都里

ううん。余計もやもやしてる。

健人

ぼくも。

間

健人

死んじゃおうかって思ったことある？

美都里

ある。

健人

ぼくもある。

美都里

死んじやう？

健人

でも、みんな悲しむよ、きつと。

美都里

そんなの気にしなくていい。だって、死んじやつてるんだから。

健人

そうか。

美都里

うん。

二人立ち上がり、川にむかつて歩き出す。

おじさん健人

待って！

二人、立ち止まる。

おじさん健人

だめだよ、そんな。さつき手紙書いたじゃないか、未来の自分につて。読む人
いなくなつちやうじゃないか。だめだよ、そんなの。

健人

じゃあ、どうしたらいいんですか？

美都里

未来から来たなら教えてよ。教えちゃいけないなんて、嘘なんですよ。正直に
話したら落ち込むと思つて、それであんなこと言つたんでしょ？

間

おじさん健人

たしかに、今はつらくて大変かもしれない。でも、未来はそうじゃない。未来
から来たぼくが言うんだから間違いない。

健人、美都里

……。

おじさん健人

全然役に立たないけど、これだけは本当。ぼくは未来から来たんだ。今から2
0年後。

健人

20年後？

おじさん健人

20年後、たとえば、アメリカやヨーロッパでは男同士、女同士が結婚できる
ようになつてゐる。

健人、美都里

ほんとに！？

おじさん健人

ほんとだよ。

健人

日本はどうなの？

おじさん健人

日本はまだできない。でも、東京や他の地方都市では、同性パートナーシップ
が認められるようになってゐる。

美都里 パートナーシップ？

おじさん 健人 結婚とは違うけど、家族として認めるっていうこと。たとえば、長い間一緒に暮らした男同士のカップルの一人が急に倒れて亡くなった。病院で治療を受けてる間、面会は家族だけって言われて、最愛の人を看取ることができなかった。でも、そういうことがなくなるんだよ。1997年の今は、男同士で部屋を借りようとする不動産屋でいやがられる。でも、未来はそうじゃない。心と体の性別が違って悩んでる人は戸籍上の性別を変えられるようになった。時代は変わっていくんだよ。

美都里 それが事実だとしても、それまであと20年もあるんでしょ？

おじさん 健人 まあ、そうなんだけど……

美都里 今をなんとかしてよ！

健人 うん！

おじさん 健人 ……今は1997年だよ。たしか、この頃から、ゲイや、レズビアン、セクシュアルマイノリティの人たちが集まって、パレードしたりしてた。

健人 パレード？

おじさん 健人 そう「自分らしく生きよう」「差別をなくしてほしい」「私たちはここにいる」って行進してた。たしか、そうだった。

健人 どこですか？ 名古屋？ 東京？

おじさん 健人 えーと、どこだったかな……？ たしか札幌？

美都里 それ新聞で見た！ 札幌で今度の日曜日、そういうのがあるって。

おじさん 健人 ほら、言ったとおりだ。

美都里 威張ることじゃないし。

健人 行ってみようか。

おじさん 健人、 美都里 え？

健人 行ってみよう。二人で。

美都里 札幌まで？

健人 うん。見てみたい、そのパレード。

おじさん 健人 そんな無理だよ。だって、君たち、まだ小学生なんだから。

美都里 行ってみよう！ 行ってみたくなった！

おじさん 健人 ええ？

健人 札幌なら、おばあちゃんがいるから、行き方は知ってる。

美都里 飛行機？

健人 ううん、電車。お母さんが飛行機苦手で。

おじさん健人　だめだって！　君たちはいつもそうやって、思いつきで行動してるよね。やめ
　　といった方がいいって。

健人　それとこれとは話が別です。

おじさん健人　でも、遠いよ、札幌。すっごくお金かかる。

健人（美都里に）　貯金、いくらある？

美都里　え？

健人、美都里に耳打ち。美都里も健人に耳打ち。

健人　行けるね！

おじさん健人　行けちゃうの？

健人　お年玉貯めてるんで。（美都里に）計画立てよう！

おじさん健人　お母さんが「だめ」って言うんじゃない？

健人　言わないよ。だって、内緒だもん。

おじさん健人　そんな、ちよつと待って。

健人（美都里に）　図書館で話そう！　時刻表も調べる！

美都里　うん。

健人（おじさん健人に）　ついてこないでくださいね！

美都里　行こう。

健人と美都里、歩きだす。

おじさん健人　ああ……！

少女がやってくる。

おじさん健人（少女に）　どうしよう？

少女　迷ってるの？

おじさん健人　なんとかしてやめさせる？　それとも一緒に行くのかな？

少女　早く決めないと。

おじさん健人　ぼくが決めるの？

少女　そうだよ。自分のことでしょ。

おじさん健人　どうしよう。だって、こんなこと全然記憶にないし、だって、こんなふうに札
　　幌に行ったことなんてないんだから。もしかして、現代に戻れなくなったりす

るんじゃない？

少女　かもしれないね。

おじさん健人　ええ？

少女　勇気を出して。前にも言ったでしょ。今のままだと世界は終わるの。あなたの世界も私の世界も。あの子を救うことが世界を救うことになるんだよ。

おじさん健人　……

少女　どうする？　どうしたい？

おじさん健人、遠くの土手を走って行く健人と美都里を見て……

おじさん健人　わかったよ。行ってみる。ほっとけないし。

少女　うん。

おじさん健人　じゃあね。

おじさん健人、健人と美都里を追っていく。

少女、しばらくそれを眺めている。

東北新幹線の車内。

数日後の土曜日。

二人がけの座席に健人と美都里が座っている。

美都里は、これまでよりも男の子に見えるような服装をしている。

同じ列の反対側に乗客が一人。

手前の席におじさん健人が座っている。

美都里　お腹空いたね。

おじさん健人　東京駅のキオスクでおにぎり買っておけばよかったのに。

美都里　人がいっぱい遅れそうだったんだよ。お弁当買う？

健人　ダメだよ。節約しないと。やっぱり、家に電話した方がよくない？

美都里　二人で決めただろ。置き手紙してくるって。健人と一緒に健人のおばあちゃんのところに行くから心配しないでって。だから、だいじようぶ。

おじさん健人　でも、札幌だとは言っていないでしょ？

健人　そうなの？

美都里　うん。

健人　それまじくない？　盛岡から電話した方がいいって。

美都里　いいよ、今頃きつと健人のお母さんに電話してる。

おじさん 健人 乗り換えの時間に電話しなよ。

美都里 うるさいなあ。

車掌がやってくる。

車掌 本日は、東北新幹線やまびこ盛岡行きにご乗車ありがとうございます。乗車券

を拝見いたします。

おじさん 健人 (健人と美都里に) 切符、どこにやった？ いつもと違うところに入れると余計

なくすからね。

美都里 うるさいって！

車掌、乗客の検札に続いて、健人と美都里の切符の検札をする。

車掌 どこまで行くのかな？

健人 札幌です。

車掌 二人だけで？

健人 はい。でも、だいじょうぶですから。

車掌 気をつけてね。

健人 はい。

車掌、おじさん 健人に声をかける。

車掌 乗車券を拝見します。

おじさん 健人 は？

おじさん 健人、こっそり座席を移動する。

車掌 (おじさん 健人に) 乗車券を拝見します。

おじさん 健人 (驚いて) 見えてるの？！

車掌 どうかしたんですか？

健人と美都里もびつくりしている。

おじさん 健人 えーと、友達が持ってるんですけど、トイレに行ってて……

車掌 なんで靴履いてないんですか？

おじさん健人 あ、この方がラクなんです。

車掌 靴見当たらないですね。

おじさん健人 友達が持ってたんだ。参ったなあ。ちよつと見て来ます。

おじさん健人、立ち上がり、次の車両へ逃げていく。

車掌、深追いせず、一礼して立ち去る。

美都里、健人 为什么呢？

乗客、さっきまでおじさん健人がいた座席を見える。

乗客（健人と美都里に） 変な車掌さんだったね。

健人 ええ……

乗客 でも、いろんな人に出会えるのが旅の醍醐味だからね。

健人 はあ……

乗客 札幌まで行くことは、盛岡で乗り換えて、特急はつかりで青森。快速海峡で函館。スーパー北斗で札幌だね。

健人 はい。

乗客 なんで飛行機じゃないの？！

美都里 電車好きなんです。

健人 大好きなんです。

短い間

乗客 だよね！ ぼくも本当は新幹線じゃなくて、各駅で行きたいくらいなんだ。でなければ寝台特急北斗星。乗ったことある？

健人 いえ、まだ……

乗客 ぼくは二十六回乗ってる。今度乗ってみるといいよ。最高だから。

健人 はい……

乗客 ぼくが撮った写真見てみる？ これ、北斗星の食堂車。グランシャリオ。グランシャリオっていうのは北斗七星って意味なんだ。

二人 へえ……

二人、乗客の写真を見える。

乗客 学校で、鉄道オタク、鉄オタなんて言われて、気持ち悪がられたりしてない？

美都里 それはないんですけど……

乗客 たしかに肩身は狭い。でも、鉄道ファンは世代を超えて大勢いるんだ。見えな
いけど大勢ね。鉄道にはロマンがある。時刻表は夢の道しるべだ。自信をもつ
て、がんばろう！

健人、美都里 はい！

車掌が戻ってくる。

車掌（健人と美都里に） 君たち、札幌まで行くっていうのは、お父さん、お母さんは知ってる
のかな？

健人 知ってます。

車掌 じゃあ、悪いんだけど、名前と電話番号教えてもらえるかな。

美都里 なんです？

車掌 一応ね、家出だったりするといけないから。

健人 そんなじゃないです。

車掌 だったら、教えてくれてもいいよね。

健人、美都里 ……。

乗客 私が保護者です。

車掌 はい？

乗客 甥っ子二人と札幌まで行くんです。

車掌 盛岡までの切符でしたよ。

乗客 札幌です！

車掌 札幌まで何のために？

乗客 え？

車掌 甥っ子さんたちと札幌に何しに行くんですか？

乗客 ……SLの写真を撮りに行くんですよ！ 鉄道好きの甥っ子たちと。

車掌 SLって苗穂ですか？ 鉄道技術館。

乗客 そうです。

車掌 いやあ、苗穂はいいですね。キハ82にC62。いい写真撮ってくださいね。

乗客 はい。

車掌 それじゃ、いい旅を！

車掌、去って行く。

おじさん健人、戻って来る。

健人、美都里 ありがとうございます。

乗客 安心して、ぼくも一緒に札幌まで行くから。

健人、美都里 いいんですか？

乗客 うん。蒸気機関車の顔が見たくなった。いつ見られなくなるかわからないからね。よし写真を一枚撮ろう。

乗客、健人と美都里の写真を撮る。

こっそりおじさん健人も紛れ込んでみる。

乗客 はい、チーズ！

シャッターの切れる音。

札幌駅。

健人、美都里 ありがとうございます！

乗客 それじゃ、元気でね！ また、どこかで会おう！

健人、美都里 はい！

乗客、去って行く。

おじさん健人がやってくる。

美都里 札幌ってやっぱり涼しいね。もう夏なのに。

おじさん健人 北海道には梅雨がないからね。一番いい季節なんだよ。よし、じゃあ、行こうか、おばあちゃんち。

健人 おじさん、どこにいたんですか？

おじさん健人 遠くからきみたちを見守っていたよ。

美都里 トイレに隠れてたくせに。

おじさん健人 だって、また、ぼくのこと見える人がいたら困るじゃないか。

美都里 先に札幌行ってくれた方が、気がラクだったんだけど。

おじさん健人 そういうわけにはいかない。ぼくは君たちをたすけにきたんだから。

美都里 あやしまれるから、無視しよう。いるけどいいことにする。

健人　　そうだね。行こう。

美都里　　うん。

健人と美都里、行ってしまう。

おじさん健人　　ああ、待ってよ！

おじさん健人、あとを追っていく。

健人のおばあちゃんの家。

おばあちゃん、健人、美都里がやってくる。

おばあちゃん　　よく来たね、二人とも。道中、無事だったかい？

健人　　うん。（紹介する）友達の美都里。

美都里　　初めまして。お世話になります。

おばあちゃん　　おや、女の子だったのかい。男の子だとばかり思ってたよ。悪かったね。別にいいです。

美都里　　おばあちゃん　　健人よりずっとたくましいかんじだ。頼もしいね。

健人　　おばあちゃん……

おじさん健人　　おばあちゃん……

おじさん健人、おばあちゃんをなつかしそうに見ている。

少女がやってくる。

以下の会話の間、健人と美都里とおばあちゃんはエアおしゃべりをしている。

少女　　どうかした？

おじさん健人　　おばあちゃん、この何年か後に病気で死んじゃったんだよ。この頃はまだ元気だったんだね。お葬式で来た時、もっと何度も遊びに行つてあげればよかったって思ったんだった。

少女　　よかったじゃない、遊びに来て。感謝してよね。

おじさん健人　　ええ……？

少女、いなくなる。

健人と美都里とおばあちゃんの会話がもどってくる。

おじさん健人は様子をずっと見ている。

おばあちゃん お腹空いてるんでないかい。

健人 うん。

おばあちゃん ジンギスカン用意してあるから。

美都里 ジンギスカン？

健人 ヒツジの焼肉。

おばあちゃん カニや寿司でなくてごめんね。札幌来たんだもの、そのくらい食べてってもらわねば。

美都里 いただきます。

おばあちゃん どれ、支度してくるから待っててね。

おばあちゃん、出て行く。

健人 よし、じゃあ、明日の計画を立てよう。新聞！

美都里 うん！

美都里、新聞の切り抜きを取り出す。

美都里 実行委員会の電話番号があるから電話してみる？

健人 やめよう、子どもはだめって言われるかもしれない。

美都里 そうか。

健人 「北6条エルムの里公園を正午に出発」って書いてある。十一時半くらいに行ってればいいんじゃないかな。

美都里 場所わかる？

健人 うん。札幌の町は道路がマス目になってるから、わかりやすいんだよ。

美都里 でも、遅れないように少し早く行こう。

健人 そうだね。早起きしよう。

美都里 うん。

おばあちゃんが大きなお盆にジンギスカンの用意をのせてやってくる。

おばあちゃん ほれ、手伝っておくれ。

健人、美都里 はーい。

健人と美都里、おばあちゃんを手伝って食事の準備。

健人、美都里 いただきます。
おばあちゃん はい、どうぞ。

健人と美都里、食べ始める。

美都里 ひつじ、うめえ！

健人 だろ。

おばあちゃん 野菜もね。とれたてだよ。

健人、美都里 はい！

おばあちゃん、嬉しそうに見ている。
おじさん健人も。

健人、美都里 ごちそうさまでした。

おばあちゃん おそまつさまでした。

健人、美都里 おやすみなさい。

二人、その場で寝てしまう。おじさん健人も。

おばあちゃん はい、おやすみ。

おばあちゃん、退場。

そして、翌朝。

少女がやってくる。

少女（おじさん健人に） もう朝だよ。起きてよ。起きて！

おじさん健人 むにやむにやむにや。

少女 もう……！（健人と美都里に）ねえ、起きてよ。もう朝だよ。あ、さ、だ、
よ！！

健人 むにやむにやむにや。もう食べられない……

二人、起きない。

少女 もうどうしたらいいの？

おじさん健人が目をさます。

少女 あ、起きた。早く、二人を起こして！

おじさん健人 ええ、何時だろ？ 十一時半？ （健人と美都里に）起きろ！ 起きろ！ 起きろ！

健人、美都里、目を覚ます。

健人 何時だろ？（時計を見て）十一時半？！

美都里（おじさん健人に）なんで起こしてくれないんだよ。

おじさん健人 長旅で疲れて熟睡してたんだよ。

美都里 役に立たないな。

健人 行こう。

美都里 うん。

おばあちゃんがやってくる。

おばあちゃん おや、起きたのかい。よく眠ってたね。

健人 ちよつと出かけてくる。

おばあちゃん どこに？

健人 友達に会いに行くんだ。

おばあちゃん 車で送っていいか？

健人 そんな遠くじゃないんで。

おばあちゃん いいのかい？

健人 夕方までには帰ってくるから。行ってきます！

美都里 行ってきます。

おじさん健人 行ってきます。

三人、出て行く。

おばあちゃん 気をつけて行っておいで！

おばあちゃん出て行く。
札幌の町。

健人 あれ、どっちだろう。

おじさん健人 こっちだよ。こっち。

健人と美都里、おじさん健人の指す方へ向かう。

健人 おかしいな。北六条ってことはこのへんなんだけど。

おじさん健人 ごめんごめん、勘違いしてた。こっちだったよ。こっち。

美都里 もう……

二人、公園に着いた。

健人 着いた。ここだね。

美都里 誰もいない。

おじさん健人 十二時過ぎたから、出発しちやっただ。

美都里 どうしよう？

少女 追いかけて！

おじさん健人 追いかけてよう。

健人 どっちに行っただろう？

少女 大通り公園からすすきのに向かつてるはず。

おじさん健人 行こう！

美都里 うん。

三人、また歩き出す。

健人 あ、あれだよ、きっと。

美都里 こっちに来る！

パレードのフロートから流れる70年代ディスコの曲が聞こえてくる。

たとえば、ペットショップボーイズがカバーした「G o W e s t」など。

三人、やってくるパレードの隊列を見ている。

おじさん健人 パレードがやってくる。何人くらいいるんだろう。とにかく大勢の人たち。先頭は、横断幕を持った人たち。そのうしろにプラカードを持った人たち。「いろいろな生き方、いろいろな愛し方」「社会に合わせて生き方は変えられない

健人

い」。大きなレインボーフラッグを持った人が何人も。ものすごいメイクと衣装のドラアグクイーンの人たち。にぎやかな音楽。

美都里

うん。すごいね。

健人

うん。

健人と美都里、手を振る。

三人の目の前をパレードが通り過ぎる。

豪華なドレスに大きなウィッグのドラアグクイーンが通りかかり、二人の近くにやってくる。

ドラアグ（健人と美都里に）小学生？

健人

はい、そうです。

ドラアグ（おじさん健人に）父さんかい？

おじさん健人 見えてるの？

ドラアグ

なにはんかくさいことゆってんの？ 隠れてるつもりかい？

おじさん健人

まあ、そんなところです。

ドラアグ

なんで靴履いてないの？

おじさん健人

……大地を直に感じたくて。

ドラアグ

へえ。一緒に歩かない？

美都里

いいんですか？

ドラアグ

決まってるべき。こっちからの眺めはいいよ。（おじさん健人に）父さんも一

緒に！ おいで！

健人、美都里、

おじさん健人 はい！

健人と美都里、歩道から車道へ降りる。

ドラアグ

ほれ、行くよ。

三人、パレードに合流して歩いて行く。

おじさん健人

パレードは札幌の繁華街すすきのを進んでいく。車が止められた道路をお祭りのようににぎやかな人たちが歩いて行く。沿道から見ている人たちはびっくりしてるみたいだったけど、ほとんどの人が笑顔で手を振ってくれてる。そして、ゴールの中島公園の広場に着いた。

中島公園の芝生広場。

ドラアグクインと健人、美都里がやってくる。

ドラアグ はい、着いた。お疲れ様。足、大丈夫かい？

健人 はい、全然。

ドラアグ（おじさん健人に）裸足でよく歩けたね。ゆるくなかったっしょ？

おじさん健人 大丈夫です。ありがとうございました。

ドラアグ 実行委員長のあいさつが始まるよ。

一同、その場に腰を下ろす。

実行委員長 みなさん、おつかれさまでした。実行委員長の中条です。

みんな、拍手をする。

実行委員長 第2回セクシャル・マイノリティプライドマーチ札幌へようこそ。この時期の

札幌は一年で一番いい陽気のはずなんです。今日は今にも降り出しそうな曇り空です。正午に北6条エルムの里公園を出発して、北海道庁付近で警察の妨害がありました。駅前通り、大通り公園、すすきのと進み、無事、ここ中島公園、芝生広場へ到着しました。沿道の人たちの反応も昨年以上に好意的でした。飛び入りで参加してくれた人も大勢いたようです。参加者の総数は、集計中ですが、約280人とのことです。道内だけでなく、全国各地から大勢の方に参加していただきました。少し休憩をして、その後の集会で参加のみなさんからメッセージをいただきたいと思います。では、よろしくお願いします。

実行委員長、退場する。

実行委員長（おじさん健人に）おつかれさまでした。

おじさん健人 おつかれさまでした！（見えていることに気付いて）え？！

実行委員長、そのまま退場。

健人 雨降るのかな？

美都里 寒くなってきたね。冬みたい。

健人 上着持って来ればよかった。

ドラアグ 入るかい？

健人、美都里 は？

ドラアグ 私のドレスに。こたつみたいに。

たしかにドラアグクイーンのドレスは巨大なスカートだ。

健人 ああ、でも、悪くないですか？

ドラアグ なんもなんも。気にすつことない。

美都里 おじゃまします。

美都里、ドラアグクイーンのドレスの裾に入る。こたつに入るように。

健人 じゃあ……

健人も入る。

ドラアグ 父さんも遠慮しないで。

おじさん健人 いや、ぼくは……

ドラアグ いいふりこなくていいから。

おじさん健人 はあ……

おじさん健人も一緒に入る。

ドラアグ なんぼかぬくいっしょ？

美都里 はい。

健人 ああ、質問があるんですけど。

ドラアグ なに？

健人 えーと、男ですか、女ですか？

ドラアグ どっちだと思う？

健人 えーと、男。

ドラアグ ブー。

美都里 女？

ドラアグ ブー。

健人、美都里 ええ？

ドラアグ 私はドラアグクイーンだからね。どっちでもあり、どっちでもないのさ。

美都里 そうなんだ。

健人 ああ、いくつなんですか？

ドラアグ トシかい？

健人 はい。

ドラアグ いくつだと思う？

健人 うーん。

ドラアグ ドラアグクイーンに年齢はないんだよ。私は永遠の十八歳。あんたたちはいくつなんだい。

健人 十歳です。

美都里 小学五年です。

ドラアグ じゃあ、一緒だね。私も十代だから。

おじさん健人 一緒ってそんな……

ドラアグ (おじさん健人に) ちょっと、そこ、言いたいことがあるなら、ちゃんと言う。悪口は面と向かって言われないからね。

おじさん健人 悪口じゃないです。なんでもないです。

ドラアグ あんたたち、内地から来たのかい？

健人 内地？

おじさん健人 北海道じゃないところってこと。

美都里 名古屋からです。

ドラアグ 名古屋？ (突然、大声で) みんな、ここに名古屋から来た小学生がいるよ！
すごいよ！

健人、美都里、おじさん健人 ええ？！

健人と美都里、立ち上がってあいさつ。

ドラアグ なして来たんだい？

健人 えーと、新聞で見て。どんな人たちがいるのかなと思って。

ドラアグ どうだい？ どんな人がいる？

健人 (集まった人たちを見て) いろんな人がいる。みんな楽しそうですね。うらやましい。
ドラアグ 楽しくないのかい？

間

健人

ドラアグ

大好きだった友達が転校して、会いに行ったら、もう来ないでほしいって……失恋したのかい？

健人

……はい。

ドラアグ

それはつらかったね。でも、だいじょうぶ、元気だしなよ。ご覧、いろんな人がいるだろう。私みたいに女装しているなドラアグクイン、ヒゲを生やしてるかっこいい兄さん、カップルで来てる姉さんたち。車椅子で参加してる人、その介助をしてる人、自分はそうじゃなくても応援しようっていう人、ただお祭りが好きで参加してる人。「多様な個性を認め合ってこそ豊かな社会」なんて立派なメッセージ掲げてるけど、そんなことより、自分は一人じゃない、そう思ってた帰ってくれたらいいと思ってるんだ。

健人

一人じゃない？

ドラアグ

そう。そう思うと、少しは元気になれるつしよ。

健人、おじさん健人、顔を見合わす。

ドラアグ

ところで、母さんはいるのかい？

健人（おじさん健人に）　どうなの？

おじさん健人　いません。

ドラアグ

それでは、私が母さんになってあげようかね。

健人、美都里、おじさん健人　ええ？！

ドラアグ

父さんが二人になってしまうか。

おじさん健人

やっぱり男だったんですね。

ドラアグ

細かいことは気にしない。どうかね？

間

おじさん健人

お気持ちはとてもうれしいんですけど……

ドラアグ

なんもなんも。ゆってみただけだから。ゆってみただけ！（突然、大声で）誰か！　誰か写真撮って！「写るんです」でいいから。（健人たちに）記念だよ、記念。忘れないように。そんなくらいいいべき。

おじさん健人

はい！

誰かがカメラを持ってやってきた。

ドラアグ

ありがとう、やっちゃん。みんな入って。はい、チーズ！

みんな笑顔。

カメラのシャッターが切られる。

ドラアグ

じゃあ、もう一枚。

健人、ドラアグクイーンがしている、指のサインに目をとめて。

健人

それなんですか？

ドラアグ（指のサインを示して）これは「I Love You」。愛してるって意味。世界

共通だよ。

健人、美都里　へえ。

健人、美都里、「I Love You」のサインをしてみる。

ドラアグ

はい、チーズ。

健人、美都里も「I Love You」のサインをして写真に収まる。
カメラに写った一同、退場していく。

おばあちゃんの家。

おばあちゃんは、美都里の母と電話で話している。

おばあちゃん

ほんとうにうちの健人がご迷惑かけて。どうぞご心配なく。もう一晩泊めて、明日、飛行機で帰るようにしますから。ええ、汽車よりその方が。私が新千歳空港まで送っていきますから。しからないでやってください。はい、到着の時間があったら、お電話しますんで。はい。はい。どうも。おばんですた。

おばあちゃん、受話器を置く。

おばあちゃん

電話替わってほしいって言われたけど、よかったのかい？

美都里

いいです。話したくないから。

おばあちゃん

お母さん心配してたよ。

美都里

帰りたくない。

おばあちゃん

どうして？

美都里　　女らしくないって、もっと女の子らしい服着ろって。
おばあちゃん　いやなんだね？

美都里、うなづく。

おばあちゃん　そう。じゃあ、負けちゃいけないよ。

美都里　　え？

おばあちゃん　お母さんに何て言われようと負けちゃいけない。

健人　　どうして？

おばあちゃん　親は子どもの幸せを一番に願うものなの。だから、もし、あんたが母さんの言うことを聞いて幸せじゃなくなったら、将来きつと後悔させることになる。だから、負けちゃいけない。母さんのためにもね。大事なのは、あんたが幸せになることなんだ。

美都里　　幸せになること……

おばあちゃん　今はわかってももらえないかもしれない。でも、忘れちゃいけないよ。

美都里　　はい。

おばあちゃん　さて、晩ご飯の支度をしよう。今日はジンギスカン。

健人　　また？

おばあちゃん　それと手巻き寿司。

健人、美都里　　やった！

おばあちゃん　せっかく来たんだもの。おいしいものたくさん食べて帰っておくれ。

おばあちゃん、立ち上がる。

美都里　　手伝います。

おばあちゃん　おや。それじゃ、頼もうかね。

二人、退場。

健人、見送っている。

おじさん健人がやってくる。

おじさん健人　どうしたの？

健人　　来てよかったなあと思って。

おじさん健人　おばあちゃん、うれしそうだね。

健人　ねえ、ずっとここにいたらだめかな？　だって、ここにいる方が楽しい。

おじさん健人　……だめじゃないよ。そうしたいなら、そうすればいい。

健人　決めていいの？

おじさん健人　もちろん。だって、これはきみの人生なんだから。

健人　……。

おじさん健人　どうする？　どうしたい？

間

健人　やつぱり帰る。帰ってから、楽しくなるようにがんばってみる。

おじさん健人　がんばれ！　札幌にはまた来ればいい、これから何度でも。おばあちゃんに会

いに。昼間会った人たちに会いに。

健人　うん。

少女、二人の様子を見ている。

*

*

*

*

*

学校の教室。

チャイムが聞こえてくる。

一学期の最後の日。

授業が終わって、掃除の時間。

梨絵と香奈、健人と美都里がいる。

香奈　あーあ、明日から夏休みか。

梨絵　うれしくないの？

香奈　だって、毎日、塾だもん。

梨絵　ねえ、みんなで花火大会行かない？

香奈　みんなって？

梨絵　男子も誘って。大勢で。

香奈　いいね。楽しそう。

綾香がやってくる。

梨絵　ねえ、綾香、みんなで花火大会行かない？

綾香　ええ、いいね。行こう行こう。

梨絵（健人に）　一緒に行く？

綾香　一緒に行く？

香奈（梨絵に）　やめなよ。誘っても行くわけない。

梨絵　だよね。

健人　いいよ、行こう。

梨絵、綾香、香奈（驚いて）　ええ？！

健人　だめ？

梨絵　だめじゃないけど……

健人　美都里も行く？

美都里　うん。行きたかったんだ。花火大会。

梨絵、綾香、香奈（驚いて）　ええ？！

健人　いつだっけ？　ぼく計画しようか？

梨絵　どうしたの健人？

健人　なに？

綾香　なんだかいつもとかんじが違う。

香奈　美都里もなんだか変わったよね？

梨絵　何かあったの？

健人　別に何も。早く掃除しちやおう。

美都里　うん。

梨絵、綾香、香奈、不思議そうに見ている。

香奈　お母さんから聞いたんだけど、翔太くん、また引っ越すんだって。

綾香　どこに？

香奈　ブラジル。

梨絵　遠いね。

綾香　地球の裏側。

香奈　もう会えなくなっちゃうね、健人。

健人　いつ引っ越すの？

香奈　今日だって言ってたよ。一学期が終わったらすぐって。

綾香　いそがしいね。

健人、掃除の手を止めて考えている。

美都里 どうしたの、健人？

健人 ……どうしよう。

美都里 健人……

健人 ……どうしよう。

綾香 また会いに行くの？

香奈 でも掃除当番だよね。

綾香 残念だったね。

梨絵 行ってきなよ、健人。

綾香、香奈 ええ？！

健人 梨絵ちゃん……

梨絵 早く行きなよ。

綾香 梨絵ちゃん、どうして？

香奈 梨絵ちゃん、翔太くんのこと好きだったんでしょ？

健人 ええ？

梨絵 私は行かないから、健人行って来て。

健人 そんな……

梨絵 いじいじしてんじゃねえよ！

健人 わかった。

香奈 掃除当番どうすんのよ？

綾香 さぼるつもり？

美都里 いいから行きなよ。掃除はみんなでやっとかから。

梨恵 うん。

綾香、香奈 ええ？

美都里 ほら、掃除するよ。

梨絵 掃除、掃除！

健人 ありがとう！ じゃあ、行ってくる！

健人、出て行く。

美都里と梨絵、綾香、香奈、掃除を始める。

おじさん健人がやってくる。

おじさん 健人 ちよつと待った。忘れてないよね。もう来ないでほいって言われたこと。

健人 でも、会いたい。会って、ぼくはもう一人でだいじょうぶだって、言いたいんだ。

おじさん 健人 今から行っても間に合わないよ。

健人 でも、もう会えなくなるんだから。

おじさん 健人 待って！

健人 止めないでください。

おじさん 健人 止めないよ。ぼくも一緒に行く。

健人 行こう！

二人、走り出す。

健人 ぼくは走った。

おじさん 健人 ぼくたちは走った。

二人 翔太くんの家まで。

翔太くんの家まで。

健人 ぼくは走った。

二人 ぼくたちは走った。

翔太くんの家まで。

翔太くんの家まで。

健人、息が切れて、立ち止まる。

その場で息を整えている。

おじさん 健人 そうだ、タクシー拾おう。タクシー！

おじさん 健人、手を上げてタクシーを止めようとするが止まらない。

おじさん 健人 ああ、見えないんだった。

健人 行こう。

二人、また走り出す。

健人 ぼくは走った。

おじさん健人 ぼくたちは走った。

二人 翔太くんの家まで。

翔太くんの家まで。

健人 ぼくは走った。

二人 ぼくたちは走った。

翔太くんの家まで。

翔太くんの家まで。

健人、また立ち止まって、息を整える。

おじさん健人 少し休もう。

健人 翔太くん行っちゃうよ。

おじさん健人 もう行っちゃったかもしれないよ。

健人 そんなことない。間に合うよ、きっと。

おじさん健人 水か何か飲んだ方がいい。ちよつと待ってて、買ってくるから。

健人 大丈夫。

健人、走り出す。

おじさん健人も一緒に。

健人 ぼくは走った。

翔太くんの家まで。

ぼくは走った。

翔太くんの家まで。

おじさん健人 もう少しだ。

健人 もう少し。

おじさん健人 もう少しだ。

健人、おじさん健人 ぼくは走った。

翔太くんの家まで。

ぼくは走った。

翔太くんの家まで。

おじさん健人 翔太くんの家が見えてきた。

健人 あ、あの車。

おじさん健人 翔太くんが車に乗ろうとしてる。

健人 翔太くーん。

おじさん健人 翔太くんには聞こえない。

健人 翔太くーん。

おじさん健人 車が走り出した。

健人 翔太くーん！！！！

健人、叫びながら、大きく手を振る。

おじさん健人も。

健人、おじさん健人 翔太くーん！

間

おじさん健人 翔太くんはぼくに気がついた。窓から身体を乗り出して、ぼくに向かって、大

きく手を振ってる

健人 翔太くん！！ 元気だね！！！！

おじさん健人 車がどんどん遠くなっていって、そして見えなくなった。

二人、振っていた手を下ろす。

長い間

健人 やったね。

おじさん健人 うん。

健人 言いたかったこと、全然言えなかったけど。

おじさん健人 でも、がんばった。

健人 そっちこそ。

おじさん健人 うん。がんばった。

二人、グータッチ。

間

おじさん健人 ずっと黙ってたけど、ぼくは20年後のきみなんだ。

健人 20年後のぼく。

おじさん 健人 そう。がっかりした？

健人 ぼく、大人になってるんだね。

おじさん 健人 うん、なってる。こんなんでごめんね。

健人 言いたいことはいろいろあるけど、背が伸びてるから許す。

二人向き合って立っている。

おじさん 健人 思い出した。こうやって、翔太君の家まで走ったこと。

健人 今、走ったばかりじゃない。

おじさん 健人 ずっと忘れてたんだよ。ありがとう。

健人 どういたしまして。

おじさん 健人 ……。

健人 おじさん、元気だしなよ。

おじさん 健人 うん。

健人 じゃあね。

健人、「I Love You」のサイン。

おじさん 健人も「I Love You」のサイン。

健人、去って行く。

おじさん 健人、立っている。

現在。

おじさん 健人の部屋。

ドアの向こうから母親の由美子の声。

由美子 健人、起きてる？

おじさん 健人 なに、母さん。

由美子が入って来る。

由美子 晩ご飯、どうする？

おじさん 健人 知らない。

由美子 少しは外に出たら。

おじさん 健人 出てるよ。

由美子 コンビニでしょ。ねえ、タロウの散歩行ってくれない。

おじさん健人 ……わかった。行ってくる。

由美子 え？ ……そう。じゃあ、お願いね。

由美子、出て行こうとする。

おじさん健人 母さん、話があるんだけど。

由美子 なあに？

おじさん健人 座って。

由美子、椅子に座る。

おじさん健人 実は、ぼく、ゲイなんだ。

由美子 ……。

おじさん健人 ずっと黙っててごめん。ごめんっていうとゲイでごめんって言ってるみたいだけどそうじゃなくて……。えーと……。えーと……

由美子 ……そうなんだ。

おじさん健人 ……うん。

由美子 あんたはそれでしあわせなの？

おじさん健人 ……うん。

由美子 そう。

間

由美子 そうじゃないかって思ってた。

おじさん健人 え？！

由美子 小学生のとき、急に札幌に行って帰ってきて、そういう人たちのパレード見たんだって、一緒に歩いたんだって、しゃべってたじゃない。うれしそうに。

おじさん健人 そっか……

由美子 もっと早く言ってくればよかったのに。あ、あんたなりに気を遣ってくれたんだね。

おじさん健人 だから、孫の顔見せてやれないと思う。

由美子 そんなこといいから。それより、園長先生から電話があったよ。いつ頃復帰できそうかって。

おじさん健人 明日、明日から行くから。

由美子　　だいじょうぶなの？

おじさん健人　うん。

由美子　　それじゃ、タロウの散歩、よろしくね。

おじさん健人　うん。

由美子、出て行く。

保育園の保護者会。

初夏。

園長先生と保護者1、2、3がいるところにおじさん健人が加わる。

園長先生

前回の保護者会でご指摘いただいた件について、園として対応を検討しました。これから夏のプール指導が始まりますが、着替えを手伝う場合もお子さんと保育士が二人きりにならないよう、また、トイレやおむつ替えも密室にならないよう配慮することになりました。これは、男性保育士だから、女の子さんだからということではなく、子どもたちみんなに対してということです。どうぞご理解ください。

保護者2

そういうことならね。

保護者1

わかりました。ありがとうございます。

園長先生

それから、佐々木先生からみなさんにお話があります。佐々木先生。

おじさん健人

はい。園長先生にも相談したのですが、やはりみなさんにお伝えしておこうと思います。私はゲイです。男性同性愛者です。だからどうということでもなく、これまでどおり変わらず子どもたちに向き合っていきたいと思っています。子どもたちには、今、お話したような言い方で伝えるつもりはありません。ただ、もし、男らしくない、女らしくないといっていじめられるようなことがあったら、いじめられているその子を責めるのではなく、大人として子どもを守ってあげられる存在でいたいと思います。以上です。これからも、どうぞよろしく願います。

間

園長先生

それでは、今日はこれで。どうもありがとうございました。

園長先生とおじさん健人、頭を下げる。

保護者1、立ち上がり、健人の近くに来るが、何も言わず、出て行く。

保護者2、健人から離れ、避けるようにして小走りに出て行く。

保護者3、それまで黙って聞いていたが、立ち上がり、健人のそばへやってくる。

無言で立っている。

園長先生

大地くんのお母さん。どうされました？

保護者3

……大地には母親が二人いるんです。

園長先生、おじさん健人 え？

保護者3

これまで、シングルマザーだとお伝えしていたんですが、本当はそうじゃないんです。シングルマザーだった時期もあるんですけど。私、レズビアンなんです。女性のパートナーと一緒に大地を育てています。

おじさん健人

そうだったんですか。

保護者3

大地はまだ小さいけど、いつか説明しなくちゃいけない。仕事が忙しいときには交替で送り迎えができたらと思うんですけど、どうしたらいいか。誰に相談すればいいか、本当に困ってしまっていて。もうだめかもしれないって。でも、佐々木先生のお話を聞いて、がんばろうって思いました。ありがとうございます。

保護者3、頭を下げる。

おじさん健人

そんな、だいじょうぶですよ。力になりますから。

保護者3

はい。今度、二人で園に来るようにしますね。

おじさん健人

ええ。

保護者3、出て行く。

園長先生も出て行く。

おじさん健人、正面を向くと、そこは健人の部屋。

少女がやってくる。

少女

ありがとう、世界を救ってくれて。

おじさん健人

え、何もしないよ。

少女

ううん、してくれた。あなたのおかげで私の世界は終わらずにすんだ。

おじさん健人

そうなの？

少女

うん。私、大地くんの子どものなの。

おじさん健人

へ？ 大地くんの？

少女

大地くんの子どもとして生まれる予定なんだけど、生まれなくなるんじゃないかって、私の世界が終わってしまうんじゃないかって。だから、来たの。でも、

あなたががんばってくれたおかげで、私は生まれることができる。

おじさん健人　　そういうもののなの？

少女　　そうだよ。何でもないひと言が誰かを救ったりする。何でもないことが、誰かのためになってるんだって。

おじさん健人　　そうか。そういうものなんだ。

少女　　うん。

おじさん健人　　ねえ、美都里に会いたい。会えるよね？　知ってるんですよ。教えてよ。

少女　　会えると思うよ。探してみるといい。

おじさん健人　　うん。

少女、歩き出すが、立ち止まる。

少女　　ねえ、子どもの自分への手紙、書いてみたら？

おじさん健人　　子どものぼくへの手紙？

少女　　そう。ちゃんと書けそう？

おじさん健人　　やってみるよ。

少女　　じゃあね。

少女、去って行く。

おじさん健人　　子どものぼくへの手紙か。えーと、子どものぼくへ。

おじさん健人、しばらく考えているが言葉をつづける。

おじさん健人　　子どものぼくへ。元気ですか？　ぼくは……ぼくは元気です。

少年の健人、美都里、少女、おばあちゃん、ドラアグクイーン、健人の母たちがやってきて、おじさん健人を見守っている。

おじさん健人、手紙の続きを考えている。

幕